

育成委員会だより

あまぬま

令和5年
(2023)
10月15日
第86号

天沼青少年育成委員会
発行責任者
五十嵐 恵子
印刷：タイヨー美術印刷株式会社



小学生の部 優勝 杉九少年野球部



小学生の部 準優勝 天沼少年野球クラブ



中学生の部 優勝 日大二中B



中学生の部 準優勝 東原中



日大二中A



天沼中・高円寺学園中



第43回 天沼地域少年野球大会 日本大学第二学園グラウンド 7月29日(土)



天沼地域少年野球大会は4年ぶりの開催となりました。猛暑の中での大会でしたが、野球を頑張っている子どもたちに関わるのはやはり楽しいです。これからはもっと選手が増えることを望んでいます。

この大会を何時も支えてくださる関係者の方々に改めて厚く御礼を申し上げます。
(五十嵐 恵子)



ボランティア育成

今年度の中学生ボランティアは開会式などの司会進行アナウンスを担当してくれました。



東京防犯協会連合会からトロフィーや飲み物などを、山崎製パン株式会社からパンをご提供いただきました。ありがとうございました。



野外活動 とうもろこし収穫体験 7月9日(日)



井草4丁目の志村農園で7月9日(日)に、収穫体験を行いました。児童12名、委員7名が徒歩やバス、自転車などで集まり、とうもろこし狩りとじゃがいも掘りも体験させていただくことができました。

子どもたちは背を超える高さに伸び揃ったとうもろこしの畑に入るのも初めは遠慮がちでしたが、次第に葉をかき分けて畑の奥まで入り、美味しそうな実をじっくりと選んで収穫しました。もぎ取ったばかりのとうもろこしは水分がぼたぼたと落ちてくるほど瑞々しく、ぷっくりとしています。ただ、見た目だけでは実入りが分からないようで、収穫後に志村さんが一つ一つ両端を包丁で切って確認してくださいました。



その後、子どもたちは汗と土まみれになって夢中でたくさんじゃがいもを掘りました。突然土の中から現れるムカデに驚いたり、じゃがいもの大きさを友達と比べ合ったり、とても賑やかで生き生きとした姿に嬉しくなりました。

都会でありながら近隣にご協力いただける農園がある、とても恵まれた環境で、これからも大勢の子どもたちに参加してほしいと思います。
(辻村 清美)

すぎくラブ かがやけ！みんなの夏休み～わくわく5人組大冒険～ 7月29日(土)



5人のチームに分かれて真夏の冒険がスタート。まずは**自己紹介タイム**。これから一緒に冒険する仲間の学年と名前をしっかりと覚えました。

校庭でのミッション**水遊びタイム**では、みんなでびしょ濡れになって涼しく遊ぶことができました。

午後からは**クラフト**。電動ドリルを使ってのネジ打ちや、針と糸で革を縫う作業など、いつもの工作とは一味違った体験にもチャレンジ。他にもモーターカーやレジン、キャンドル作りなど、難しい工程は高学年が低学年をサポートしながら完成させました。みんなで一緒に完成させたことで5人のチームワークはさらに深まっていきました。

最終ミッションの**ゲームラリー**は地域の方や保護者の方にもご協力いただきました。子どもたちは8つのゲームにチャレンジ。ゲームを達成する度に、たくさんの温かい拍手をもらい、どのチームも嬉しそうにしている姿が印象的でした。

最後はみんなで記念撮影。5人組大冒険は大成功で幕を閉じました!! 夏休みの素敵な思い出になったことと感じます。

(クラブ長 加藤 崇)

楽しかった♪ あっばれ！天沼カッパーランド 春の陣 3月8日(水)

昨年度の「あっばれ！天沼カッパーランド春の陣」は3月8日(水)に開催しました。参加者は、出演者を含め約130名と大盛況でした。

天沼児童館のキャラクターのカップにちなんだ「カッパーランド」。春の陣では、ステージでコマ・けん玉、一輪車ショーやダンス等、自分の好きなことを披露しました。いつもは成功しているのに緊張して失敗して残念がったり、成功して喜んだり、真剣な表情や可愛い様子に見ているお客さんも引き込まれていました。保護者や友達に見守られてやり遂げた出演者たちは、きっと思い出に残る時間になったと思います。出演者もお客さんも一体となった素敵なおまつりになりました。

今後も、地域の皆様と一緒に「こどもまんなか」の児童館運営が出来るようご協力をよろしくお願いたします。

(天沼児童館 主査 飯泉 友里)



卒業・進級おめでとう!! 第15回 小・中学生のためのボウリング教室 3月27日(月)

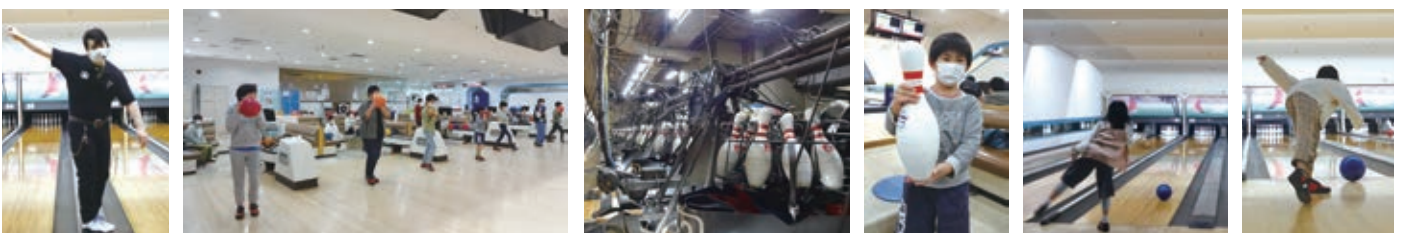
4年生から中学3年生までの参加者のほとんどが、ボウリング経験が初めてとのことでした。まずは、靴を借りてボールを選び、インストラクターの望月さんより簡単なルールやマナーの説明、腕の振り方や足の運び方など、ボールの投げ方を教えて頂きました。その後、緊張した面持ちで練習が始まりましたが、ピンが倒れるたびに拍手が起こり、笑顔も出てきました。

練習の合間にはチームごとにボウリングの機械の裏側を見学し、ピンにも触らせていただいて各々興味を示していました。そしていよいよゲームがスタートしました。ゲームに入ると

● 力が入ってしまう子もたくさんいましたが、投げ方を工夫して回数を重ねるごとに上達し、隣のチームとスコアを見ながら盛り上がり上がっていました。

● 初めての経験でも基本を教えたので、最後にはストライクを出した子も複数いました。うまくいなくても最後まであきらめずにゲームをして、ボウリングを楽しむことができていたようです。また参加したいとの声もあがっていました。ボールの重さに驚きましたとの感想もありました。

(坂詰 真理子)



コロナ禍から見えてきた大切なもの



杉並区立天沼小学校

校長 薩摩 博之

今年度より天沼小学校校長に着任いたしました薩摩博之です。育成委員会の皆様には、日頃より大変お世話になっております。

令和5年度、とうもろこし収穫体験や天沼少年野球大会などの様々な行事が戻って来ました。コロナ禍の約3年間は、私たちにとって大変厳しいものでした。緊急事態宣言発令や臨時休校等があり、3密の回避が求められました。社会全体の安全のため、多くの行事等を中止せざるを得ない状況でした。

一方で、私たちが大切なものを見つめ直す時間になったように思います。私は、「個人でできること」と、「人と人がつながり集まってできること」には違いがあるということを再確認しました。当たり前のことですが、一人でも家の前で壁当てをしてボールを捕る練習はできますが、野球の試合をすることはできません。先日伺った天沼少年野球大会では、参加する子どもたちだけでなく、運営に係る育成委員会の方々や各チームの監督、コーチ、応援する保護者の方々など、大変多くの皆様が子どもたちの活動を支えてくださる姿を見せていただきました。私たちの生活は、人と人に関わりつながることで豊かになると考えます。天沼地区で、そうした力を発揮してくださっている一つが育成委員会の皆様です。心より感謝申し上げますとともに、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

上を向いて歩こう ～たまには視線UPで防犯意識 3月28日(火)

年度末ギリギリ、桜は満開を過ぎ朝からの降雨が嘘のように晴れあがった令和5年3月28日(火)にパトロールを実施しました。荻窪警察署生活安全課スクールサポーターの方と委員4名でした。

「杉並区立コミュニティふらっと東原」を起点に東原中学校南側と杉並第九小学校敷地の外周をぐるっとひと回りしてきました。今回は主要駅の繁華街でしたが、今回は住宅街の中の学校通学路という別角度でした。

「変質者」や「不審者」などの情報が頻回する現場、防犯上の監視カメラのある場所の位置と実物、そして子供達が集まりやすいであろう場所などを目的に散策しました。

何かひとつでも「気」づきを持って街中をぶらっと歩いてみるのが大切なと感じました。大人の目の有無、ご近所同士が挨拶できる町会、そして、子供達がいざという時に大声を出せる環境も大いに犯罪の抑止力となっていきます。初動の大切さも学んだ佳き日となりました。

(土屋 賢祐)



令和5年度 行事報告と予定

新旧常任委員会	4月27日	広報「あまぬま」第86号発行	10月15日
定期総会	5月25日	たのしさバクハツ!天沼まつり	11月18日
野球大会監督会議	6月8日	委員研修(講演会)	11月21日
とうもろこし収穫体験	7月9日	すぎくラブ秋祭り	11月25日
常任委員会	7月13日	大根収穫体験	12月3日
少年野球大会	7月29日	常任委員会	12月14日
すぎくラブ夏のイベント	//	広報「あまぬま」第87号発行	3月10日
My 箸づくり教室	8月26日	常任委員会	3月14日
パトロール	9月14日	ボウリング教室	3月26日
天沼小防犯教室	9月30日		

新任委員		
常任委員	主任児童委員	石田 幸代
//	天沼小 PTA	泉本 優子
//	杉九小 PTA	伊藤茉莉子
//	天沼中 PTA	杉本恵理子
//	東原中 PTA	西川 巨
委員	天沼小校長	薩摩 博之
//	東原中校長	岩本真由美
//	日本大学第二学園	小林 眞由
//	日本大学第二学園	竹居 利晃
//	子どもプラザ下井草	日野 美香
退任委員		
委員	地域協力者	大八木玲奈
//	//	下田 夏恵
//	//	武藤 恒俊
//	天沼小校長	松野 泰一
//	東原中校長	小松 進一
//	子どもプラザ下井草	大塚明日香
長い間御尽力いただき、ありがとうございました。		

当育成委員会のホームページがあります。こちらからご覧ください。 ➡

編集担当：佐藤・齋藤・広瀬・成田

